誕生「智慧の燈火」

田中 雅也

株式会社チエノワ 代表取締役
1986年石川県金沢市生まれ。
2008年筑波大学卒業後にPR会社へ就職。
「メディアウェーブ=発掘力(ネタ)×アイディア力(工夫)×継続力(仕組み)」理論を用いたメディア露出・話題づくりに従事し、年間180社以上の広報・PRを手掛ける。
2013年に独立し、チエノワを設立。テレビ各局でビジネス番組、経済番組等を企画。PR・ブランディング手法としてピラミッド戦略を提唱し、年間200社超の企業を手掛ける。
2015年、長寿企業との出会いをきっかけに、現在の「智慧の燈火」プロジェクトを発足する。

私はこれまで、主に東京メトロポリタンテレビジョンや千葉テレビ、BS12 トゥエルビ等、ビジネス経済番組を制作・運営し、1,000社を超える企業経営者の皆様に出演を頂いてきました。

その多くは新進気鋭のベンチャー企業の皆様でしたが、一昨年に何代にも渡り暖簾を繋いできた長寿企業の方々との出会いによって、私の想いや考え方というものが一変しました。

これまでメディアの使命というのは、「イノベーションを起こした企業や業界を牽引するトップ企業、世界に羽ばたく企業を取り上げていくこと」だと、常識のように考えていましたが「長寿企業それぞれの〝ものがたり〟に秘められた、哲学・文化・歴史観は21世紀・22世紀を乗り越えていく知恵となる!」と感じ、それこそが僕自身の使命だと確信しました。

日本は、世界に誇ることのできる世界一を数多く抱えています。単一国家として約2700年(125代続く天皇制)の世界最古の国であり、世界一の長寿国でもあります。そして、もう一つの世界一、それが長寿企業大国です。

創業100年を超える企業は約30,000社、更に200年企業は約3,000社、1000年を超える企業は8社と、どれも世界の半数以上が私たちの生まれ育った日本にあるのです。

現在に至るまでの100年間といえば、二度の世界大戦(1914年、1939年)をはじめとする、幾度となく戦争、世界恐慌(1929年)、リーマン・ショック(2008年)等の金融危機、関東大震災(1923年)や阪神・淡路大震災(1995年)、東日本大震災(2011年)等の自然災害と数多くの困難が訪れた期間です。それらの困難を乗り越え、受け継がれてきた長寿企業ですが、その知恵は全く残されておらず、社史以外には書籍も30冊程度と乏しく、伝えていく場もないのが現状です。

それは一体何故なのか。調べていく上で3つの課題に着地しました。

1つ目は信用。長寿企業が何より大切にされているのが信用であり、信用のない企業、友人からの推薦・紹介がない企業との取引は慎重に行い、またメディア側が自由自在に取り上げる内容を決めることを善しとしないこと。2つ目は謙虚な経営姿勢。「長く続けられただけであり、我々が皆様にお伝えするほどの知恵はありません。」と常に身は低く、周りを立てられていること。3つ目は急拡大・急成長を求めないこと。長寿企業のうち7割を超える企業は売上5億円以下であり、従来のメディアで大々的に広告展開やプロモーションを行わず、地域や街、お客様への貢献を第一と考えていること。この3つがあるからこそ、世界中の長寿企業の半数以上が日本にあるにも関わらず、その知恵が遺されていなかったと推測しています。

「信用を護り、地域と人に貢献し、時代と共に伝承と革新を続けながら、〝身の丈経営〟を貫く。」

長寿企業、一社一社では異なるものの、それぞれに秘められた知恵。これは資本主義時代における利益第一主義や理論・法則による経営手法(MBA理論)とは異なる、信用第一主義、それぞれの企業が唯一無二の道を見出す独自の経営手法が背景にある、と確信しました。

この長寿企業の知恵を、次なる世代・時代へと遺し継承していくことこそが、22世紀ひいては23世紀にむけて必要不可欠であると感じ、「智慧の燈火プロジェクト」を発足いたしました。

これは、創業100年を超える長寿企業が持つ唯一無二の〝ものがたり〟。その中に秘められた哲学・文化・歴史観を発掘していく「日本が誇る〝世界遺産〟の発掘プロジェクト」です。私たちは一つひとつのご縁を大切にし、番組、イベント、雑誌、ウェブと様々なメディアと仕組みを通じて、「長寿企業の知恵」を次なる世代・時代へ遺していく架け橋(土台)を築いていきます。

初めてのコラムである今回は、本プロジェクトの目標、そしてビジョンについて触れて参ります。

まず目標。

日本が世界最古の国家(単一国家として約2700年・125代続く天皇制の国)として、その歴史を知ることができる理由は、『古事記』『日本書紀』という、日本最古の書物が遺されていたことに由来します。

では、誰がこの日本最古の書物を遺させたのでしょうか。第40代天武天皇です。

時は飛鳥時代、西暦673年3月20日~686年10月1日の在位期間に『古事記』、『日本書紀』の編纂を始め、その遺志が受け継がれ、『古事記』は712年に元明天皇(第43代天皇・女帝)、『日本書紀』は720年に元正天皇(第44代天皇・女帝)に献上されました。

当時、天武天皇が日本の歴史を後世に遺していく必要性、これを誰よりも信じ、取り組まれたからこそ、ご自身の在位期間では完成できなくとも、次の世代に継承され、完成し、その書物が1000年先の未来に遺り、様々な時代を超える中で、日本人としてのアイデンティティーを示し続けてくれるものとなりました。

私たちはこの天武天皇の取組みを目標とし、「世界一の長寿企業大国の知恵、千社千様のものがたりを遺していく」と覚悟を決めました。

そしてビジョン。

30カ年ビジョンとして「チエノワ※を世界標準語へ」を本プロジェクトでは掲げています。

(※チエノワ=長寿企業の知恵と定義。)毎年1000年を超える企業が新たに長寿企業の仲間入りを果たし、世界一の数を誇る長寿企業。それぞれの唯一無二のものがたり、つまり長年積み重ねてきた知恵こそが、日の丸の知恵であり、世界中の中小企業に一つでも気づきを与え、よりよい会社と社会を築いていく礎になると信じ、使命ではなく〝志命〟として取り組んで参ります。

次号以降も毎回コラムにて各メディアや長寿企業の紹介をさせていただきますので、何卒宜しくお願い申し上げます。